平成31年度／令和元年度・令和２年度・令和３年度

【研究主題】

思考力・判断力・表現力等を育成するための問題解決的な学習の指導の工夫

～持続可能な開発のための教育（ESD）に資する小岩小授業モデルの構築と実践～

図解：問題解決的な学習

令和4年度　新校舎落成・開校140周年

開校140周年キャラクター×SDGs／区承認済み

小岩小授業モデル

国語科　算数科　音楽科　図工科　巡回指導　弱視通級

SDGs未来都市 EDOGAWA

江戸川区立小岩小学校

実　践　編

目　　次

■理論・運営編

研究主題と小岩小授業モデル（研究概要） …… 1

研究の背景と研究主題 …… 2

小岩小授業モデルの考え方 …… 3

校内研究の推進 …… 13

研究経過 …… 19

■実践編

研究主題と小岩小授業モデル（研究概要） …… 1

国語科 授業モデル …… 3

算数科 授業モデル …… 7

音楽科・図工科 授業モデル …… 11

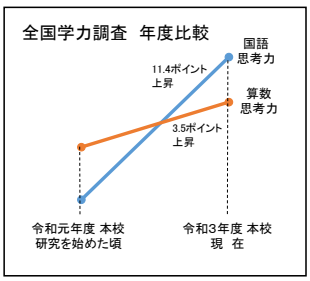
巡回指導 授業モデル …… 17

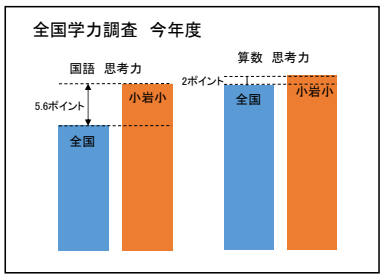
弱視通級 授業モデル …… 21

思考力等の評価 …… 25

■全国学力調査比較　思考力関連

研究開始（元年度）と現在（3年度）





■保護者・地域向け研究発表

令和 3 年 10 月 16 日（土）

保護者・地域向け研究発表 令和3年10月16日（土）

【保護者の声（原文）】

- 小岩小学校の取組について理解することができました。統一的指導・段階的指導。どの学年に上がっても変わらず、子供たちも安心して課題に取り組むことができ安心しました。
- 近年、話題のSDGs。「問題解決的な学習」でSDGsとリンクするのだと興味深かったです。（中略）“問題解決”能力、PDCA能力等は社会で必要不可欠だと思うので、その力を養う学習・取組、先生方の努力に感謝です！

■令和元年度～３年度までの実践検証

- 研究授業：　28 回
- 研究公開：183 回
- 合　　計：211 回

第3学年算数科「あまりのあるわり算」

研究主題と小岩小授業モデル（研究概要）

【研究主題】

思考力・判断力・表現力等を育成するための問題解決的な学習の指導の工夫

～持続可能な開発のための教育（ESD）に資する小岩小授業モデルの構築と実践～

問題解決的な学習

持続可能な開発のための教育（ESD）

カリキュラム・マネジメント

各教科等で養う思考力・表現力・判断力等

主体的・対話的で深い学び

問題発見

問題解決

	国　語	算　数	音楽･図工	巡回指導	弱視通級
つかむ（課　題）	叙述等をもとにめあてを設定する	問題を把握しめあてを設定する	思い等をもとにめあてを設定する	めあてや活動を確認する	めあてや活動を確認する
				振り返る	振り返る 体験する
考える（思　考）	自分で考える	自力で解決する	自力で考える	自分の考えをもつ	自分の考えをもつ
かかわる（交　流）	交流する	比較･検討する	交流する	実践･交流する	実践･交流する
深める（深　化）	再考する 振り返る	たしかめる 振り返る	再考する 振り返る	振り返る 再実践する	振り返る 再実践する

方法としての教科横断的な視点

認知心理学に基づく問題解決

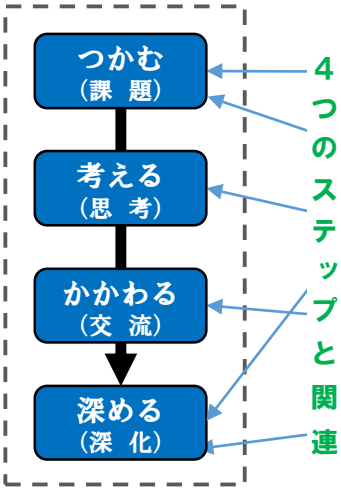
小学校学習指導要領

小岩小授業モデル

モデルとは、必要な**要素**を抽出し、要素を関連付けて**最適化**を図ること

→必要な**要素＝学習のステップ・考え方・手立て等**　　**最適化＝子供の思考に沿ってスムーズにつなげること**

4つの学習ステップは総則編「思考力等を形成する3つの過程」に符合



思考力等を形成する３つの過程　小学校学習指導要領解説総則編より

1. 物事の中から**問題を見いだし**、その問題を定義し**解決の方向性**を決定し、**解決方法を探して計画**を立て、**結果を予測**しながら実行し、

振り返って**次の問題発見・解決に**つなげていく過程

2. 精査した情報を基に**自分の考えを形成**し表現したり、

目的や状況等に応じて**互いの考えを伝え合い**、**多様な考えを理解**したり、**集団としての考えを形成**したりしていく過程

3. 思いや考えを基に構想し、**意味や価値を創造**していく過程

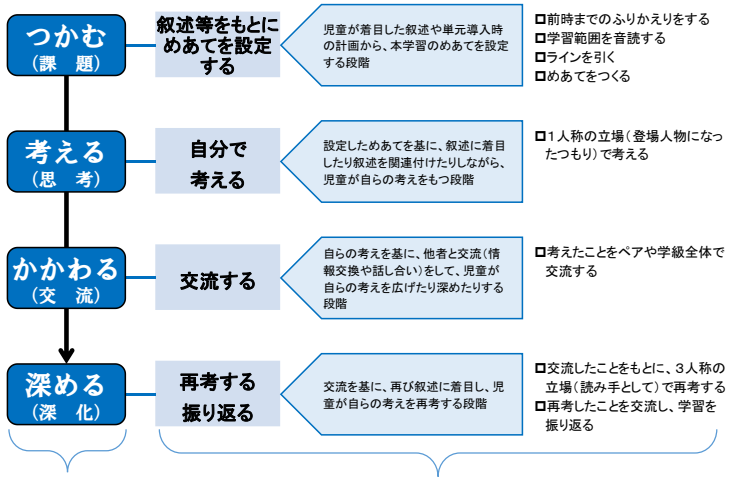
小岩小授業モデルの４つの学習ステップは思考力等を養う学習過程

- 小学校学習指導要領解説総則編には、思考・判断・表現を養う過程として、上記の3つを挙げている。
- この過程は、上記のように**小岩小授業モデルと符合**している。この**学習指導要領の趣旨に基づき小岩小授業モデルを構築・展開**する。

小岩小授業モデルと各教科等の構成要素

要素①～④　それぞれ順に下位の要素を構成

教科等 **共通**要素 ＞ 教科等 **固有**要素 ＞ 教科等固有要素の**考え方** ＞ 考え方に基づく主な学習**活動（例）**

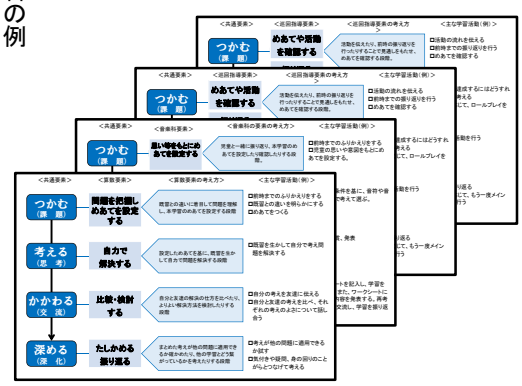


※左図は国語科の例

モデルとは、必要な**要素**を抽出し、要素を関連付けて**最適化**を図ること
→必要な**要素＝学習のステップ・考え方・手立て等**　**最適化＝子供の思考に沿ってスムーズにつなげること**

教科横断的な視点と各教科等の特質の関連付け

- 小学校学習指導要領では、「教科横断的な視点」とともに、一見相反する「各教科等の特質」の両立を挙げている。
- 小岩小授業モデルでは、下記の通り構成した。
  要素①教科等**共通**要素→4つのステップ
  要素②教科等**固有**の要素→各教科等の特質
  要素③教科等**固有**要素の考え方
  要素④教科等**固有**要素の考え方に基づく主な学習活動例（手立て）

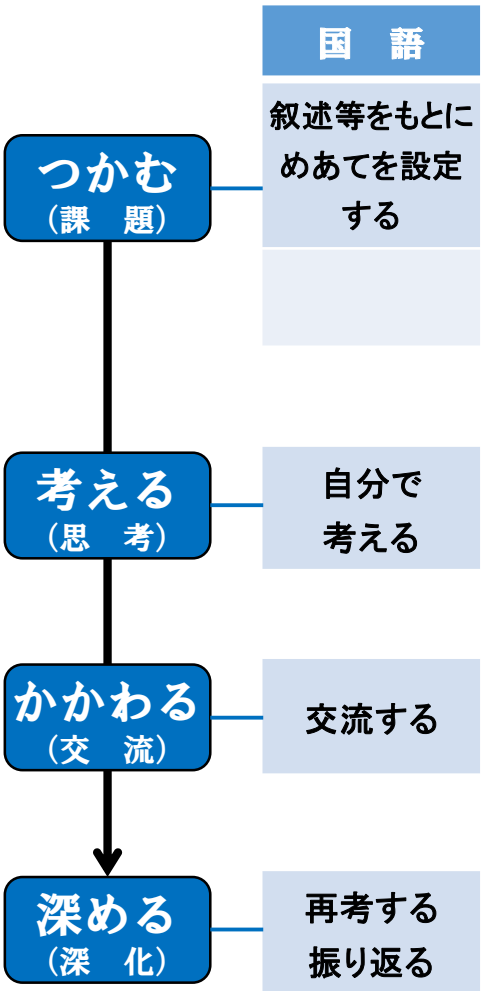


算数科・音楽科・図工科・巡回指導・弱視通級も同様に

思考力等を養う問題解決的な学習

国　語　科

小岩小授業モデル



国語科授業モデルについて

■国語科授業モデルの構成

＜共通要素＞	＜国語要素＞	＜国語要素の考え方＞	＜主な学習活動（例）＞
つかむ（課　題）	叙述等をもとにめあてを設定する	児童が着目した叙述や単元導入時の計画から、本学習のめあてを設定する段階	□前時までのふりかえりをする □学習範囲を音読する □ラインを引く □めあてをつくる
考える（思　考）	自分で考える	設定しためあてを基に、叙述に着目したり叙述を関連付けたりしながら、児童が自らの考えをもつ段階	□1人称の立場（登場人物になったつもり）で考える
かかわる（交　流）	交流する	自らの考えを基に、他者と交流（情報交換や話し合い）をして、児童が自らの考えを広げたり深めたりする段階	□考えたことをペアや学級全体で交流する
深める（深　化）	再考する 振り返る	交流を基に、再び叙述に着目し、児童が自らの考えを再考する段階	□交流したことをもとに、3人称の立場（読み手として）で再考する □再考したことを交流し、学習を振り返る

■学習指導要領　国語科　文学的な文章の「思考力等」に関する指導

「思考力等」に関する目標

教科目標	言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ⑵　日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。
1・2年目標	⑵　順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをもつことができるようにする。
3・4年目標	⑵　筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
5・6年目標	⑵　筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げることができるようにする。

「思考力等」に関する指導事項「Ｃ読むこと」の⑴

「構造と内容の把握」 構造と内容の把握とは，叙述を基に，文章の構成や展開を捉えたり，内容を理解したりすること
「精査・解釈」 精査・解釈とは，文章の内容や形式に着目して読み，目的に応じて必要な情報を見付けることや，書かれていること，あるいは書かれていないことについて，具体的に想像すること
「考えの形成」 考えの形成とは，文章の構造と内容を捉え，精査・解釈することを通して理解したことに基づいて，自分の既有の知識や様々な体験と結び付けて感想をもったり考えをまとめたりしていくこと
「共　有」 共有とは，文章を読んで形成してきた自分の考えを表現し，互いの考えを認め合ったり，比較して違いに気付いたりすることを通して，自分の考えを広げていくこと。

★文学的な文章「読むこと」に焦点化

- 平成30年度に保護者・地域の声を取り入れ、国語科では「情感的な思考力」、算数科では「論理的の思考力」として2教科先行して研究を進めた。
- こうした経緯から国語科では領域「文学的な文章（読むこと）」に焦点化をして研究を積み重ねてきている。

■国語科授業モデルの学習指導案への適用例（1単位時間の場合）

3学年「わすれられないおくりもの」

目標 「ありがとう、あなぐまさん。」と言ったもぐらの気持ちについて考えることができる。

授業モデル共通要素

各番号は授業モデルの国語要素

国語科指導事項		学習活動
精査・解釈 考えの形成 内容と構造の把握	つかむ（課題）	1．叙述等をもとにめあてを設定する ●前時の学習を振り返る。 ●中心人物と6の場面の・時・場所を確認し音読する。 ●めあてについて話し合う。 「ありがとう、あなぐまさん。」と言ったもぐらについて 考えよう。
	考える（思考）	2．自分で考える ●「ありがとう、あなぐまさん。」と言ったもぐらの気持ちがわかる叙述にサイドラインを引く。 ●もぐらの立場になって考える。
共有	かかわる（交流）	3．交流する　※Cは児童の考え（例） C1：ぼくのために切りぬき方を教えてくれてありがとう。 C2：ぼくたちにたくさんの知恵や工夫を残してくれてありがとう。 C3：あなぐまさんが残してくれたものの豊さでぼくは幸せです。ありがとう。
再び考えの形成（一人に帰る学び）	深める（深化）	4．再考する　※Cは児童の考え（例） ●交流をもとに、「ありがとう、あなぐまさん。」と言ったもぐらについて読み手の立場から考える。 「ありがとう、あなぐまさん。」と言ったもぐらについて 自分はどう考えますか？ ●再考したことを交流する。 C4：悲しみを乗り越えて、あなぐまさんに感謝できるようになってよかったと思います。 C5：みんなを代表してお礼を言うことができて立派だと思います。 C6：最初はもぐら自身のお礼だけかと思ったけど、友だちの考えを聞いて、みんなの代表として感謝するために丘に登ったのだと思いました。 5．振り返る ●もぐらの思いを考えながら音読する。

「つかむ」「考える」「かかわる」を経て、
個々の「深める（思考の深まり）」へ

★めあてを設定する場面

「ありがとう、あなぐまさん。」と言った ＋ もぐら ＋ について考えよう。

山場等（考えさせたい叙述）　中心人物等　「気持ち」ではなく「ついて」考えよう

※気持ちを聞きすぎると、気持ち探し・答え探しに

他学年の例

1年お手紙：

「とてもいいてがみだ」と言った　がまくんに　ついて　考えよう

6年川とノリオ：

「サクッ、サクッ、サクッ、母ちゃん帰れよう」の時の　ノリオに　ついて　考えよう

★自分で考える場面

一度、1人称で考える（人物になってみる）活動を設定する

＝人物に対して感情移入をさせる

★互いの考えを交流する場面

- 自分で考える場面で「予め想定した児童の反応」を把握する。
- 把握した考えを「予め想定した児童の反応」と関連させて意図的指名をし、多様な考えを板書により視覚化する。

※例は様々な視点に対する「ありがとう」

- 「関わる」を介して、個々の考えを広げる（他の考えを取り入れる）深める（自分の考えを確かにする）

ぼくとみんなのために…ありがとう。

ぼくのために…ありがとう。

悲しみをのりこえることができた。…ありがとう。

知恵や工夫を…ありがとう。

はさみの使い方を教えてくれて…ありがとう。

考えを比較させる
✓似ている点
✓異なる点

★自分の考えを深める場面

交流をもとに

「ありがとう、あなぐまさん。」と言った ＋ もぐら

山場等（考えさせたい叙述）　中心人物等

＋ について自分はどう考えますか（考えをまとめる）。

3人称（読み手）の立場から

難しい場合は2人称（人物への声かけ）も可

1人の児童の変容例

ぼくに、はさみの使い方を教えてくれてありがとう。

知恵や工夫を…ありがとう。

悲しみをのりこえることができた。…ありがとう。

取り入れ

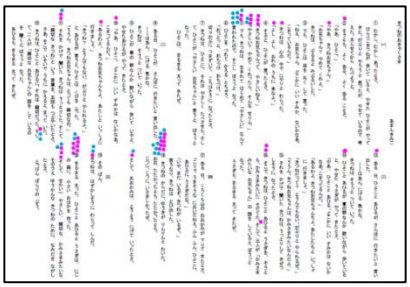
あなぐまさんは、みんなに知恵や工夫を残してくれたのだと考えました。また、みんなは悲しみを乗り越えることができたのだと思いました。だからもぐらさんはお礼を言いたくなったのだと思います。

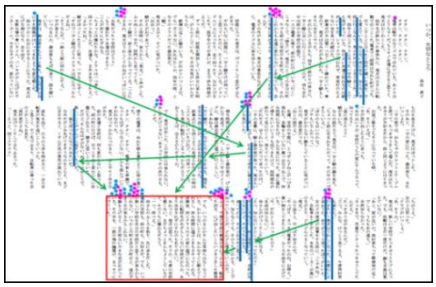
2.考える活動時　3.かかわる活動時　4.深める活動時

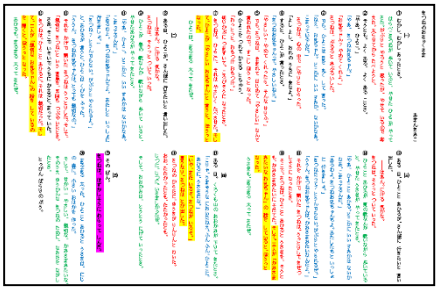
国語科授業モデルと手立て

全文シート　物語全文を1枚に集約し、全体を俯瞰できるようにしたもの。叙述を関連付けるときにも活用する。

主な活用場面例







単元導入：印象に残る叙述を確認させる時
家庭学習：物語の流れを内容を理解させる時

学習展開：複数の叙述を関連づけて考えさせる時
学習を振り返り、物語全体を確認させる時

教師活用：教材研究や指導する時（物語全体を俯瞰しながら）

人称読み

児童自ら読み（叙述に基づく考え）をもたせる・深めさせるために、次の視点で考えさせる。

1人称の読み　※主に低学年
登場人物になったつもりで考える。
手立て例　吹き出し・日記等

2人称の読み　※主に中学年
人物に語りかけるつもりで考える。
手立て例　手紙・語りかけ等

3人称の読み　※主に高学年
人物や場面について、読み手として考える。
手立て例　コメント・意見等

ライン法　6年間のステップ

児童が的確にラインを引けるように、以下を6年間のステップとする。

1 導入期（1年1～2学期）
感想をもちやすい叙述に着目させて、ラインを引かせる。

- おもしろいと思う叙述
- 楽しいと思う叙述
- ふしぎだなと思う叙述
- 分からないなと思う叙述

2 移行期（1年3学期）
分かりやすい視点を示して、ラインを引かせる。
- 気持ちが分かる叙述
- 登場人物などの行動や様子が分かる叙述
- できごとが分かる叙述

3 課題発見期（2～6年）
自分で課題をみつけるために、ラインを引かせる。
- 大事だなと思う叙述
- 読み深めたいと思う叙述
- 疑問に思う叙述
- 「自分の読み」に関連する叙述

音　読

活用①　全文の音読

- 物語全体の把握のため
  どこにどんな内容が書かれているか
  子供：そう言えばあの場面に
  教師：段落相互の関係の指導
- 主な活用場面例
  家庭学習で（一定時間がある）
  1次　初発の感想　学習計画

活用②　学習範囲の音読

- 学習する範囲の把握のため
  どこにどんな内容が書かれているか
  子供：そう言えばあの文章に
  教師：段落や場面の指導
- 主な活用場面例
  授業の最初
  本時を行う前日の家庭学習

活用③　焦点化した叙述の音読

- 叙述をもとに考えさせるため
  子供：特にこの文・言葉は
  教師：解釈や思考形成の指導
- 考えさせる発問の例

a.　この文には登場人物のどんな思いが込められているか？
b.　どのように音読する？

↓

なぜそのように音読したか？

子供：
ここを強くの読むのは人物の・・・
ここの間は人物がこう考えて・・・

小学校学習指導要領解説　国語編
音読には，自分が**理解しているかどうかを確かめる働き**や自分が**理解したことを表出する働き**などがある。このため，声に出して読むことは，響きやリズムを感じながら**言葉のもつ意味を捉える**ことに役立つ。また，音読により自分が理解したことを表出することは，他の児童の理解を助けることにもつながる。

音読は自分のペースで
- 音読は思考・理解のために行う。
- 思考や理解のスピードは子供個々によって異なる。
- 自分のペースで音読するように促す。
  早く読み終えた子→例）再度読む、重要なところ（人物の気持ち等）を考えておくように促す。
- 思考・理解の指導場面では、群読・丸読み等は避ける。

主に次の点を意識して音読させる。
強く読む（プロミネンス）：
どの言葉を強く読むか（大事な言葉）
＝文章内容の理解
間をとる（ポーズ）：
どこまでをひとまとまりとして読むか
＝文章構成の理解
元日本国語学会会長
田近 洵一 先生のご指導

思考力等を養う問題解決的な学習

算　数　科

小岩小授業モデル

	算　数
つかむ（課　題）	問題を把握しめあてを設定する
考える（思　考）	自力で解決する
かかわる（交　流）	比較・検討する
深める（深　化）	たしかめる振り返る

算数科授業モデルについて

■算数科授業モデルの構成

＜共通要素＞	＜算数要素＞	＜算数要素の考え方＞	＜主な学習活動（例）＞
つかむ（課　題）	問題を把握しめあてを設定する	既習との違いに着目して問題を理解し、本学習のめあてを設定する段階	□前時までのふりかえりをする □既習との違いを明らかにする □めあてをつくる
考える（思　考）	自力で解決する	設定しためあてを基に、既習を生かして自力で問題を解決する段階	□既習を生かして自分で考え問題を解決する
かかわる（交　流）	比較・検討する	自分と友達の解決の仕方を比べたり、よりよい解決方法を検討したりする段階	□自分の考えを友達に伝える □自分と友達の考えを比べ、それぞれの考えのよさについて話し合う
深める（深　化）	たしかめる振り返る	まとめた考えが他の問題に適用できるか確かめたり、他の学習とどう繋がっているかを考えたりする段階	□考えが他の問題に適用できるか試す □気付きや疑問、身の回りのことがらとつなげて考える

■学習指導要領　算数科「思考力等」に関する指導

「思考力等」に関する目標

教科目標	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・ 能力を次のとおり育成することを目指す。 (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力，基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。
１年目標	ものの数に着目し，具体物や図などを用いて数の数え方や計算の仕方を考える力，ものの形に着目して特徴を捉えたり，具体的な操作を通して形の構成について考えたりする力，身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え，量の大きさの比べ方を考える力，データの個数に着目して身の回りの事象の特徴を捉える力などを養う。
２・３年目標	数とその表現や数量の関係に着目し，必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する力，平面図形の特徴を図形を構成する要素に着目して捉えたり，身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力，身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え，量の単位を用いて的確に表現する力，身の回りの事象をデータの特徴に着目して捉え，簡潔に表現したり考察したりする力などを養う。
４・５年目標	数とその表現や数量の関係に着目し，目的に合った表現方法を用いて計算の仕方などを考察する力，図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し，図形の性質や図形の計量について考察する力，伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し，変化や対応の特徴を見いだして，二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力，目的に応じてデータを収集し，データの特徴や傾向に着目して表やグラフに的確に表現し，それらを用いて問題解決したり，解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力などを養う。
６年目標	数とその表現や計算の意味に着目し，発展的に考察して問題を見いだすとともに，目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方などを考察する力，図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し，図形の性質や図形の計量について考察する力，伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し，変化や対応の特徴を見いだして，二つの数量の関係を表や式，グラフを用いて考察する力，身の回りの事象から設定した問題について，目的に応じてデータを収集し，データの特徴や傾向に着目して適切な手法を 選択して分析を行い，それらを用いて問題解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察したりする力などを養う。

■算数科授業モデルの学習指導案への適用例（1単位時間の場合）

３学年「小数」

目標　「小数のたし算の仕方について考えることができる。」

授業モデル共通要素

各番号は授業モデルの算数要素

	学習活動
つかむ（課題）	1．問題を把握しめあてを設定する ジュースが、大きいびんに0.3L、小さいびんに0.2L入っています。あわせて何Lありますか。 ●既習から式を類推する。0.3＋0.2 ●めあてについて話し合う。 小数のたし算の計算の仕方について考えよう。
考える（思考）	2．自力で解決する C1 0を取って3＋2＝5　0をつけて0.5 C2 リットルますを描いて目盛りを数える。 C3　数直線をかいて数える。 C4　0.1が5個分と考える。
かかわる（交流）	3．比較・検討する　※Cは児童の考え（例） C5：リットルますや数直線をかいて考えると答えは0.5L。 C6：いつも図をかくのは大変だ。 C7：3＋2＝5でそれに0をつけていいのはなぜだろう。 C8：3＋2は0.1の個数になっている。 C9：C1とC4は同じことだ。 ●まとめる 0.3＋0.2は、0.1をもとにして3＋2の計算で考えることができる。
深める（深化）	4．たしかめる、振り返る　※Cは児童の考え（例） ●ほかの問題で試す。 ●今日の学習を振り返る。 C10：30＋20も10をもとにして3+2になる。 C11：小数のひき算でもできそうだ。

「つかむ」「考える」「かかわる」を経て、
個々の「深める（思考の深まり）」へ

★めあてを設定する場面

◇小数のたし算は未習

◇既習の「あわせて」の操作からたし算であること、小数も整数と同じ数であること、これらから0.3＋0.2が類推できる。

◇めあては0.3＋0.2を例にして「小数のたし算の計算の仕方を考えよう。」となる。

★自力で解決する場面

◇既習を活用して様々な解決方法を考える。

・小数の意味、リットルます、数直線、整数のたし算の仕組みなど

◇一人で複数の解決方法を考える。

・異なったアプローチで答えが同じになれば、その妥当性が高まる。

★比較・検討する場面

場面

➢ **自分で考える場面で「予め想定した児童の反応」を把握する。**

➢ **把握した考えを「予め想定した児童の反応」と関連させて意図的指名をし、多様な考えを板書により視覚化する。**

考えを比較させる
✓似ている点
✓異なる点

◇一つ一つの考えに妥当性があるか確かめる。

・一つ一つの考えは筋道立っているか。

◇考え方の関連性を明らかにする。

・「似ているところ」「違うところ」を見いだすことによって、その考えのよさが見えてくる。

「リットルますや数直線は答えが確かだが、かくのは大変。」

「0をとって3＋2と考えることと、0.1の5個分を考えることは似ている。」

「0.1の数を数えていることはどちらも同じ考えだ。」

◇よりよい考えに練り上げる

・0.1の何個分と考えると一般化できる。

➢ **「関わる」を介して、個々の考えを広げる（他の考え取り入れる）深める（自分の考えを確かにする）**

★振り返る場面

◇統合的・発展的に考察する。

・今までと同じと考えたり、本時よりさらに広がった学習の見通しをもったりする。

1人の児童の変容例

0.3＋0.2は、0を取って、3＋2＝5で計算する。その答えに0をつけて0.5になる。

2.考える活動時

3＋2を計算して答えの5に0をつけていいのはなぜだろう？

リットルますや数直線を使うと、0.1をもとに数えている。

3＋2は、0.1の個数になっている。

3.かかわる活動時

取り入れ

- **0.3＋0.2の計算は、0.1のいくつ分かで考える。**
- **30＋20の計算の時も10のいくつ分で考えていたのと同じ。**
- **0.1のいくつ分かで考えれば、小数のひき算もできそう。**

4.深める活動時

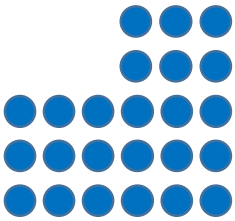
既習を想起させる発問や掲示物の提示

算数科は積み重ねの学習であるため、既習の想起が大切である。特に「問題を把握する場面」や「自力で解決する場面」では大きな役割を果たす。本研究では発問と掲示物の提示に着目した。

◇既習を想起させる発問

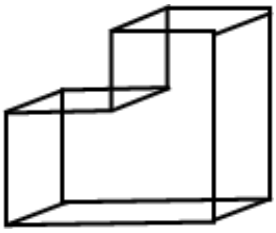
- 「今日の問題は昨日と何が違いますか。」（昨日との相違点から今日の学習を明確化する）
- 「今までに分かっていることと分からないことに整理してみましょう。」（わかっていることからこれからのめあてや方法を類推する。例…分数の加法・減法から分数の乗法・除法を類推する）
- 「〇〇について分かっていることをあげてみましょう。」（わかっていることを更に拡張する。例…小数第一位から小数第二位へ広げる。1より小さい分数から1より大きい分数へ広げる。）

◇既習を想起させる掲示物



2年「かけ算」

4年「面積」



5年「体積」

例…4年「面積」の学習時、2年「かけ算」のドット図から単位面積を想起させる。

例…6年「体積」の学習時、2年や5年の図から分割の考え方等を想起させる。（図形領域との関連）

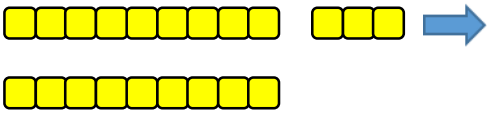
考え方にタイトルをつける

比較・検討する場面での考え方を発表するとき、説明が冗長でどのような考え方なのかわからなくなることがある。そこで端的にイメージ化しやすいように考え方にタイトルをつけた。

例…1年「ひき算」

めあて　12－3の計算の仕方をかんがえよう。

「ブロック12から3をとって数える」



「ずかぞえほうしき」

「10から3を引いて7、7と2をあわせて9」

12－3＝9

2　10　　**「さくらんぼほうしき」**

「3を2と1にわけて、12から2を引いて10、10から1を引いて9」

12－3＝9

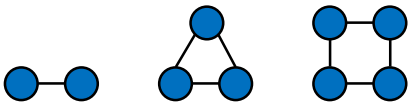
2　1　**「うしろさくらんぼほうしき」**

対話的な交流の場を設定する

かかわる場面では対話的な活動を積極的に活用したい。本研究では次のような取り組みを実践した。

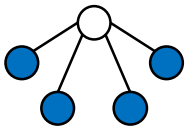
◇自分の考えを友達に伝える

・ペアで　グループで



◇考えをもつ児童のところへ友達が聞きに行く

- 自力解決の児童が少数だった場合に、その考えを聞きに行き、そこで話し合ったり自分の解決につなげたりする。



◇本時のまとめ（きまりや考え方）を友達と伝えあう

- 特に低学年において「計算の仕方」を唱えさせることでは効果がみられた。

思考力等を養う問題解決的な学習

音　楽　科
図　工　科

小岩小授業モデル

	音楽・図工
つかむ（課　題）	思い等をもとにめあてを設定する
考える（思　考）	自力で考える
かかわる（交　流）	交流する
深める（深　化）	再考する 振り返る

音楽科授業モデルについて

■音楽科授業モデルの構成

＜共通要素＞	＜音楽科要素＞	＜音楽科の要素の考え方＞	＜主な学習活動（例）＞
つかむ（課　題）	思い等をもとにめあてを設定する	児童と一緒に振り返り、本学習のめあてを設定したり確認したりする段階。	□前時までのふりかえりをする □児童の思いや意図をもとにめあてを設定する。
考える（思　考）	自力で考える	設定しためあてを基に、習得した知識や技能を使っての児童が自分の力で考えたり表現する段階。	□設定した条件を基に、音符や音高を自分で考えて選ぶ。
かかわる（交　流）	交流する	自らの考えを基に、対話や鑑賞、発表をしながら、他の人の表現に触れ、児童が自らの考えを広げたり深めたりする段階。	□対話、鑑賞、発表等の活動を行い、考えを広げる。
深める（深　化）	再考する 振り返る	鑑賞や表現などの交流を基に、児童が気付いたり、感じ取ったりするなどの活動をし、自分の表現に取り入れ、自分の表現を深める段階。	□ワークシートを記入し、学習を振り返る。また、ワークシートに記入した内容を発表する。再考したことを交流し、学習を振り返る。

■学習指導要領　音楽科「思考力等」に関する指導

目標

教科目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ⑵　音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
1・2年目標	⑵　音楽表現を考えて表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見出しながら音楽を味わって聴くことができるようにする。
3・4年目標	⑵　音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさを見出しながら音楽を味わって聴くことができるようにする。
5・6年目標	⑵　音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさを見出しながら音楽を味わって聴くことができるようにする。

内容の例

共通事項	ア　音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関りについて考えること。
1・2年内容	歌唱の例　ア　歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。
3・4年内容	音楽づくりの例　ア　音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の（ア）及び（イ）をできるようにすること。 （ア）即興的に表現することを通して、音楽づくりへの発想を得ること。 （イ）音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識して音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。
5・6年内容	鑑賞の例　ア　鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。

■音楽科授業モデルの学習指導案への適用例（１単位時間の場合）

６学年「循環コードを活用して音楽をつくろう」

目標　「循環コード」に合わせて、決められた条件を基に、まとまりのある音楽をつくることができる。

授業モデル共通要素

各番号は授業モデルの音楽要素

	学習活動
つかむ（課題）	1. 思い等をもとにめあてを設定する ● 前時の学習を振り返る。 ● 循環コードを使用している曲「パッヘルベルのカノン」を演奏する。 ● めあてについて話し合う。 「和音と和音の間の音符や音高には法則を見つけ、その条件を取り入れて曲をつくろう。」
考える（思考）	2. 自力で考える ● 設定した条件を確認しながら、同じ音符を使用してつくってみる。 ● 音符を変えて曲の変化について考える。
かかわる（交流）	3. 交流する　※Cは児童の考え（例） C1：ぼくは長い音符だけでつくったら落ち着いた曲になった C2：ぼくたちに沢山の音を入れたらあわただしい曲になった。 C3：「反復や、呼びかけとこたえ」を取り入れたら、まとまりのある曲になった。
深める（深化）	4. 再考する　※Cは児童の考え（例） ● 交流をもとに、自分の曲のよさを再認識したり、友達の考えを取り入れたりする。 設定した条件や以前学習した、つくる際の条件を取り入れて、お気に入りの曲をつくる。 ● 再考したことを交流する。 C4：友達の曲を聴いて、自分の曲が元気な感じになった。 C5：反復を取り入れたら、まとまりのある曲になった。 C6：長い音符と短い音符をバランスよく取り入れたら、気に入った曲になった。 5. 振り返る ● 設定した条件を活用して、どのようにお気に入りの曲をつくったか発表する。

「つかむ」「考える」「かかわる」を経て、
個々の「深める（思考の深まり）」へ

★めあてを設定する場面

「和音の最初の音から始まっているが次の和音までの間は音が自由だ　＋
最後の音は和音の一番低い音だ。

設定した条件を活用して、気に入った曲に「ついて」考えよう

※難しい場合はリード文や穴埋めにして考えるようにする。

他学年の例
4年音楽づくり：
「反復や、呼びかけとこたえ」を活用して、自分の曲を考えよう
5年生音楽づくり：
「速さや音の合わせるタイミングを工夫して」即興的に曲を考えよう。

★自分で考える場面

パソコンを使用して、設定した条件を確認しながら、つくってみる。
＝音符や音高を変えると曲がどのように変化するか考える。

★互いの考えを交流する場面

➢ 自分で考える場面で「予め想定した児童の反応」を把握する。
➢ 把握した考えを「予め想定した児童の反応」と関連させて意図的に指名をし、多様な考えを板書により視覚化する。
➢「かかわる」を介して、個々の考えを
広げる（他の考え取り入れる）
深める（自分の考えを確かにする）

ぼくの曲は楽しい感じがするな！

私の曲と似ているな！

以前学習した「反復、呼びかけとこたえを取り入れたら、まとまった曲になるんだな。

いろいろな音符を使うと感じが変わっていいな！

考えを比較させる
✓似ている点
✓異なる点

★自分の考えを深める場面

交流をもとに
「和音の中の音から始める　＋　次の和音までは音は自由
設定した条件
＋　以前学習した「反復・呼びかけとこたえ）。
まとまった曲、お気に入りの曲になる

1人の児童の変容例

ぼくの曲は奇麗だが単調で、物足りなかった。

色々な音符や音高。

反復、呼びかけとこたえ。

取り入れ

僕の曲は綺麗だったが単調だった。友達の音符の工夫や反復を取り入れてみたら、まとまりのある曲になって、お気に入りの曲ができた。

2.考える活動時　3.かかわる活動時　4.深める活動時

図工科授業モデルについて

■図工科授業モデルの構成

＜共通要素＞	＜図工科要素＞	＜図工科の要素の考え方＞	＜主な学習活動（例）＞
つかむ（課　題）	思い等をもとにめあてを設定する	児童と一緒に振り返り、本学習のめあてを設定したり確認したりする段階。	□前時までの振り返りをする □用具の使い方を知る、振り返る □めあてをつくる
考える（思　考）	自力で考える	設定しためあてを基に、習得した知識や技能を使っての児童が自分の力で考えたり表現する段階。	□設定しためあてを基に、自分の力で考えて表現をする
かかわる（交　流）	交流する	自らの考えを基に、対話や鑑賞、発表をしながら、他の人の表現に触れ、児童が自らの考えを広げたり深めたりする段階。	□対話、鑑賞、発表等の活動を行い、考えを広げる
深める（深　化）	再考する 振り返る	鑑賞や表現などの交流を基に、児童が気付いたり、感じ取ったりするなどの活動をし、自分の表現に取り入れ、自分の表現を深める段階。学習を振り返る。	□鑑賞で気づいたことを取り入れ表現する □ワークシートを記入し、学習を振り返る。また、振り返ったことを発表等交流し、学習を振り返る

■学習指導要領　図工科「思考力等」に関する指導

目標

教科目標	表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおりに育成することを目指す。 ⑵　造形的なよさや美しさ，表したいこと，表し方などについて考え，創造的に発想や構想をしたり、作品zなどに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
1・2年目標	⑵　造形的な面白さや楽しさ，表したいこと，表し方などについて考え，楽しく発想や構想をしたり，身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
3・4年学目標	⑵　造形的なよさや面白さ，表したいこと，表し方などについて考え、豊かに発想や構想をしたり，身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
5・6年目標	⑵　造形的なよさや美しさ，表したいこと，表し方などについて考え，創造的に発想や構想をしたり，親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

内容・共通事項

1・2年内容等	内容 ア　造形遊びをする活動を通して，身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付くことや，感覚や気持ちを生かしながら，どのように活動するかについて考えること。zz [共通事項] イ　形や色などを基に，自分のイメージをもつこと。
3・4年内容等	内容 ア　造形遊びをする活動を通して，身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや，新しい形や色などを思い付きながら，どのように活動するかについて考えること。 [共通事項] イ　形や色などの感じを基に，自分のイメージをもつこと。
5・6年内容等	内容 ア　造形遊びをする活動を通して，材料や場所，空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや，構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら，どのように活動するかについて考えること。 [共通事項] イ　形や色などの造形的な特徴を基に，自分のイメージをもつこと。

■図工科授業モデルの学習指導案への適用例（２単位時間の場合）

５学年「同じもの、たくさん」

目標　材料からイメージを広げ、自分で考えたり、他児と協力をし合ったりしながら、自ら考えて表現することができる。

授業モデル共通要素

各番号は授業モデルの図工要素

	学習活動
つかむ（課題）	1．思い等をもとにめあてを設定する ●本時の学習内容を知る。 T :（紙コップを見せながら）これ知ってる？ （並べたり、積んだりしながら）何ができそう？ C1:ピラミッドみたいに積める。 C2:横にならべることもできる。 ●本時のめあてをつかむ。 紙コップを並べたり、積んだりして、いろいろな形を表現しよう。
考える（思考）	2．自力で考える　※Cは児童の考え（例） ●1人20個の紙コップを使って、個人で製作する。 C3:こんな風に重ねられたよ。 C4:慎重にやらないと、すぐに壊れちゃうよ。 C5:20個じゃ足りないよ。
かかわる（交流）	3．交流する　※Cは児童の考え（例） ●個人で製作をした経験を生かして、グループで製作する。 C6:〇〇さんの表し方面白いね。それをみんなでやってみようよ。 C7:みんなの形を生かして繋げていこうよ。 ●鑑賞をする。 T:鑑賞をしましょう。自分のグループと「同じところ」「ちがうところ」を見つけてワークシートに書きましょう。 C8:この積み方同じだね。 C9:この並び方良いね。やってみようよ。
深める（深化）	4．再考する　※Cは児童の考え（例） ●鑑賞したものを生かし、再度製作する。 5．振り返る　※Cは児童の考え（例） ●活動の振り返りをする。 ・グループで題名やどこを見て欲しいかを考えてワークシートに書く。 ・ワークシートで、自分自身の振り返りをする。 ●振り返りを全体で共有する。 C10:身近な紙コップでいろいろつくれることが分かった。 C11:途中で崩れてしまったが、それを生かして思ってもみなかった形ができた。 C12:他の班のちがうところを取り入れたら、面白い形ができた。

「つかむ」「考える」「かかわる」を経て、
個々の「深める（思考の深まり）」へ

★めあてを設定する場面

生活に身近な紙コップを1つ見せ「これ知ってる？」と児童に聞く。その後、5つ見せながら、「何ができそう？」と問いかけ、児童の前で並べたり、積んだりして活動に関心をもたせるために具体的なやり方を示し、生活に身近なものでも児童に何か表現ができそうだと気付かせる。

★自分で考える場面

20個の紙コップを並べたり積んだりしていろいろな表現を試させる。

★互いの考えを交流する場面

●個人で製作をした経験を生かして、グループで製作する。

●鑑賞をする。
自分のグループ、他のグループを比べて、形の工夫等「同じところ」「ちがうところ」を見つけるようにする。
ワークシートに書くときは言葉でも絵でも表現しやすい方を書く（描く）ように言葉掛けをする。

考えを比較させる

✓同じところ
→自分の考えを大切にする
✓ちがうところ
→他者の考えを認める

ピラミッドみたいにきれいに積んでいるところが同じ。

紙コップの重ね方がちがうし、周りを柵みたいに囲っているところがちがう。

★自分の考えを深める場面

●鑑賞を生かし、再度製作する。

●活動の振り返りをする。
工夫したところ、頑張ったことろ、取り入れたこと、学習をして分かったことなどを書くように伝える。

児童の例

紙コップは、飲み物を入れるだけだと思っていたが、見方を変えるといろいろな使い方ができると分かった。作っている途中で形が変わったのが面白かった。紙コップをななめにしたり、重ねたりするといろいろな表現ができることが分かった。

音楽科・図工科授業モデルと手立て

■音楽科の手立ての工夫【鑑賞】

つかむ

前時の学習から、自分の思いや意図をもとに、本時めあてを設定できるようにする。
めあての発問を工夫して考えるようにしたり、めあての板書を穴埋めにしたりして、児童が考えてめあてを設定できるようにする。

手立ての例

> ［　　］や［　　］に気を付けて、曲にふさわしい表現を工夫して演奏しよう。

考える

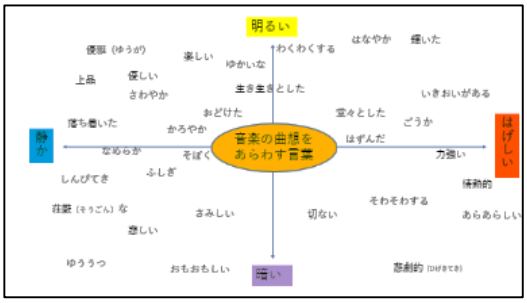
気付いたこと（事実）と、感じ取ったことを分けて考え、色分けして板書する。また、思ったことや気持ちを言葉で表すことができるよう、形容詞などの表を掲示する

手立てno

例

気付いたこと　速い、音が強い、音が短い

感じたこと　ワクワクした、驚いた



かかわる

板書に色分けされた、気付いたことと、感じ取ったことを生かして、自分の思いを伝えたり、友達の意見を聞いたりしてワークシートに記入する。

手立ての例

ペアの友達と意見を交換し、ワークシートに自分と友達の意見が同じ部分に下線を引き、友達の考えがいいなと思った箇所には、相手のワークシートに二重丸を記入する。

深める

友達と意見を交換する中で、曲や演奏の深めるようにするため、よさなどについて考えをもち、曲全体を聴き深めることができるよう、気付いたことと感じ取ったこととを関わらせて考えることができるようにする。

手立ての例

自分が前向きな気持ちになるのは、打楽器の力強さと、金管楽器の華やかな旋律が繰り返されるからだと思った。そのようなところがこの曲のお気に入りです。

■図工科の手立ての工夫

つかむ

発問や参考資料などを生かした導入を行い、児童の「やってみたい」という気持ちを引き出す工夫をし、本時のめあてを設定する。

手立ての例

・参考作品、参考資料を見せる。

・用具の使い方の掲示物を見せる。

例　彫刻刀の使い方

考える

題材や材料を基に児童が自分の力で考えるようにする。

手立ての例

児童が図鑑やタブレットを用いて調べ、アイデアを考える。

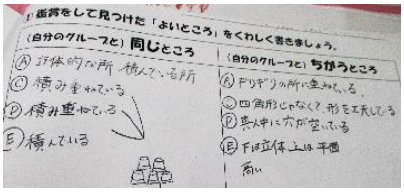
かかわる

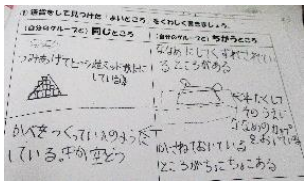
鑑賞の活動を通して、友達の考えに触れ、ワークシート等を用いて、考えをまとめるようにする。

手立ての例

鑑賞（「同じところ」「ちがうところ」）をワークシート等を用いて、文字や絵で表現させる。

例　ワークシート





深める

鑑賞で友達の考えに触れたものを基に再考し、表現を深めるようにする。また、ワークシート等を用い、活動の振り返りをするようにする。

手立ての例

振り返りシートを用いて、「わかったこと」「工夫したこと」「今度やるときに取り入れたい表現」等、活動の振り返りをしやすいように示す。

思考力等を養う問題解決的な学習

巡 回 指 導

小岩小授業モデル

	巡回指導
つかむ（課　題）	めあてや活動を確認する 振り返る
考える（思　考）	自分の考えをもつ
かかわる（交　流）	実践・交流する
深める（深　化）	振り返る 再実践する

巡回指導の対象

通常の学級に在籍する自閉症、情緒障害、学習障害、注意欠陥多動性障害のある児童。

巡回指導　小集団指導モデルについて

■巡回指導　小集団指導モデルの構成

＜共通要素＞	＜巡回指導要素＞	＜巡回指導要素の考え方＞	＜主な学習活動（例）＞
つかむ（課　題）	めあてや活動を確認する 振り返る	活動を伝えたり、前時の振り返りを行ったりすることで見通しをもたせ、めあてを確認する段階。	□活動の流れを伝える □前時までの振り返りを行う □めあてを確認する
考える（思　考）	自分の考えをもつ	設定しためあてを基に、どうすればそのめあてを達成できるか考えたり、望ましい姿をイメージしたりする段階。	□めあてを達成するにはどうすればよいか考える □実態に応じて、ロールプレイを行う
かかわる（交　流）	実践・交流する	メインの活動（ゲーム的活動、相談活動等）を行う段階。	□メインの活動を行う
深める（深　化）	振り返る 再実践する	実践・交流したことを振り返り、めあてを達成することができたかどうかを確認する段階。	□活動を振り返る □時間に応じて、もう一度メインの活動を行う

■学習指導要領　自立活動に関する指導

自立活動の目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

自立活動の内容

「１　健康の保持」 （1）生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。 （2）病気の状態の理解と生活管理に関すること。 （3）身体各部の状態の理解と養護に関すること。 （4）障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。 （5）健康状態の維持・改善に関すること。	「４　環境の把握」 （1）保有する感覚の活用に関すること。 （2）感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。 （3）感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。 （4）感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。
「２　心理的な安定」 （1）情緒の安定に関すること。 （2）状況の理解と変化への対応に関すること。 （3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	「５　身体の動き」 （1）姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。 （2）姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。 （3）日常生活に必要な基本動作に関すること。 （4）身体の移動能力に関すること。 （5）作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。
「３　人間関係の形成」 （1）他者とのかかわりの基礎に関すること。 （2）他者の意図や感情の理解に関すること。 （3）自己の理解と行動の調整に関すること。 （4）集団への参加の基礎に関すること。	「６　コミュニケーション」 （1）コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 （2）言語の受容と表出に関すること。 （3）言語の形成と活用に関すること。 （4）コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 （5）状況に応じたコミュニケーションに関すること。

■巡回指導　小集団指導モデルの学習指導案への適用例（１単位時間の場合）

高学年グループ「言葉のキャッチボール」「タワーを建てよう！」

目標　・相談活動やゲーム的活動を通し、友達と協力したり相談したりする等の成功体験を積むことができる。
　　・自分の気持ちや意見を相手に分かりやすく伝えたり、相手の意見を聞いて気持ちを受け入れたり意見を譲ったりすることができる。

授業モデル共通要素

各番号は授業モデルの巡回指導要素

	学習活動
	活動１「言葉のキャッチボール」
つかむ（課題）	1. めあてや活動を確認する・振り返る ● ・前時について思い起こし、本時のめあてを確認する。 ＜めあて＞ 会話を続けよう。
考える（思考）	2. 自分の考えをもつ ・お題について、想像を広げマインドマップを書く。 （テーマ）好きな給食
かかわる（交流）	3. 実践・交流する ・マインドマップを基に会話を行う。
深める（深化）	4. 振り返る ● ・めあてについて振り返ったり感想を伝えたりする。
	活動２「タワーを建てよう！」
つかむ（課題）	1. めあてや活動を確認する・振り返る ● ・前時について思い起こし、本時のめあてを確認する。 ＜めあて＞ 自分の意見を伝えたり相手の意見を受け入れたりしよう。
考える（思考）	2. 自分の考えをもつ ・めあてを達成するにはどうすればよいか具体的な姿を確認する。 ・ゲームのルールの確認を行う。
かかわる（交流）	3. 実践・交流する ・チームに分かれ、うまくいくための作戦を立てたり練習を行ったりする。 ・1回戦目のゲームを行う。
深める（深化）	4. 振り返る ・1回戦目の振り返りを行う。
かかわる（交流）	5. 実践・交流する ・2回戦目の作戦を立てる。 ・2回戦目のゲームを行う。
深める（深化）	6. 振り返る ● ・めあてについて振り返ったり感想を伝えたりする。

「つかむ」「考える」「かかわる」を経て、
個々の「深める（思考の深まり）」へ

★めあてを選択する場面

めあてを提示する。
（例）＜めあて＞会話を続けよう。

↓

めあてを達成させるには、具体的にどうすればよいか、児童に考えさせる。

↓

意見を発表させる。（場合によっては、教員が伝える。）

↓

出てきた意見の中から、特にがんばりたいことをそれぞれ選択させる。（名前カードを貼る。）
（例）・相づちを打つ。
　　・質問をする。
　　・「話が変わるけど…」と言って話題を変える。

★評価の場面

提示されためあてについて児童が振り返る。
例）・「相づちを打つことができました。」
　　・「あまり質問することができませんでした。」等

↓　　↓

児童同士で評価をする。　　各担当教員が評価をする。

↓

LTから評価を伝え、授業で学んだことの価値付けを行う。ネガティブに捉えてしまったり、自信がなかったりする児童が多いため、できなかったことだけでなくできたことに着目させる。
例）「質問は少なかったかもしれないけど、相づちを打ったり相手の話に合わせてコメントしたりすることはできていたのがよかった。」等

小集団指導モデルと手立て

■小集団グループの設定方法

【A児の指導目標】
◎困ったときに適切な方法で担任や友達に助けを求めることができる。
◎自分の気持ちや考えを順序立てて相手に伝わるように話すことができる。
◎自分と他者との違いに気付き、相手の立場になって物事を考えることができる。

【B児の指導目標】
◎相手に受け入れられる言動や適切な伝え方を知り、言動の修正を図ることができる。
◎物や人の動き、掛け声に合わせて自分の体をコントロールすることができる。

【C児の指導目標】
◎心配や不安、怒り等の気持ちがあっても場面や状況にあった行動をとることができる。
◎集団参加に必要なルールを意識して行動することができる。
◎自分と他者との考え方の違いに気付き、相手の意向を確認して修正することができる。

↓

それぞれの児童が目標を達成するために小集団指導を編成

↓

小集団指導において、それぞれの指導目標を達成するためスモールステップでその日の指導の目標を設定
【A児の本時の目標】
（例）自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。
【B児の本時の目標】
（例）相手の気持ちを汲み取ったり、意見を受け入れたりすることができる。
【C児の本時の目標】
（例）担当の先生と相談し、リーダーの先生に許可を得ながら活動に参加することができる。

↓

それぞれの本時の目標を達成させるための指導内容・教材を選定
・協力型ゲーム　・話し合い活動　・運動　・グループワーク　等

■ＬＴ・ＳＴの役割

4つの要素に合わせた役割の例		
	LT	ST
つかむ	・前時の振り返りと共に、本時のめあてを伝える。	・担当児童によって、がんばってほしいことを焦点化させて伝える。
考える	・めあてを達成させるための具体的な方法を考えさせる。 ・考えを発表させたり、「こうするとうまくいくかもしれないよ。」という考え方のきっかけを与えたりする。	・担当児童によって、一緒に相談しながら考える。必要がない場合には見守る。
かかわる	・司会の立場となり、会話が円滑に進められるよう調整を行う。 ・活動に入らず、個々の言動の記録をとりながら観察を行う。 ・児童と共に活動を行いながら活動の場を調整する。モデルとなる。	・担当児童の言動を記録したりタブレットで録画したりしながら観察を行う。必要に応じて、担当児童の支援を行う。 ・児童と共に活動を行う。見本を見せたり、モデルとなったりする。 ・担当児童を見守り、必要に応じて支援を行う。
深める	・めあてについての振り返りを児童に話させる。それに対し、適切な評価を行ったり価値づけを行ったりする。	・活動によって、担当児童の具体的な様子とそれに合わせた評価を行う。（良かった点）

LT（リーダーティーチャー）
→中心となって授業を行う。

ST（サブティーチャー）
→必要に応じて担当児童の支援を行ったり、活動の見本を見せモデルとなったりする。

思考力等を養う問題解決的な学習

弱視通級指導

小岩小授業モデル

	弱視通級
つかむ（課　題）	めあてや活動を確認する 振り返る 体験する
考える（思　考）	自分の考えをもつ
かかわる（交　流）	実践・交流する
深める（深　化）	振り返る 再実践する

弱視通級指導の対象

拡大鏡などの使用によっても通常の文字、図形などの視覚による認識が困難な程度のもので、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度の児童。

弱視通級指導　授業モデルについて

■弱視通級指導　授業モデルの構成

＜共通要素＞	＜弱視通級指導要素＞	＜弱視通級指導要素の考え方＞	＜主な学習活動（例）＞
つかむ（課　題）	めあてや活動を確認する 振り返る 体験する	見えにくさによる経験不足を補ったり、生活や学習での課題を確認したりする段階。	□視覚機器や、活動の体験をする □見やすくする工夫をして体験をする □めあてを確認する
考える（思　考）	自分で考える	設定しためあてを基に、どうすれば見えやすくすることができるか・達成できるか考える段階。	□めあてを達成するにはどうすればよいかを考える
かかわる（交　流）	実践・交流する	自らの考えを基に、他者と交流（情報交換や話し合い）をして、活動を行う段階。	□活動を行う
深める（深　化）	再考する 振り返る	実践・交流したことを振り返り、めあてを達成することができたかどうかを確認する段階。	□めあてについて振り返る □次の時間に生かしたいことを考える ※場合によって、“かかわる”と“深める”を繰り返す

■学習指導要領　自立活動に関する指導

自立活動の目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

自立活動の内容

「１　健康の保持」 （1）生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。 （2）病気の状態の理解と生活管理に関すること。 （3）身体各部の状態の理解と養護に関すること。 （4）障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。 （5）健康状態の維持・改善に関すること。	「４　環境の把握」 （1）保有する感覚の活用に関すること。 （2）感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。 （3）感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。 （4）感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。
「２　心理的な安定」 （1）情緒の安定に関すること。 （2）状況の理解と変化への対応に関すること。 （3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	「５　身体の動き」 （1）姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。 （2）姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。 （3）日常生活に必要な基本動作に関すること。 （4）身体の移動能力に関すること。 （5）作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。
「３　人間関係の形成」 （1）他者とのかかわりの基礎に関すること。 （2）他者の意図や感情の理解に関すること。 （3）自己の理解と行動の調整に関すること。 （4）集団への参加の基礎に関すること。	「６　コミュニケーション」 （1）コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 （2）言語の受容と表出に関すること。 （3）言語の形成と活用に関すること。 （4）コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 （5）状況に応じたコミュニケーションに関すること。

■弱視通級指導　自立活動学習指導案への適用例（１単位時間の場合）

低学年「ルーペを上手に使おう」

目標　・ルーペを用いて正確に文字や図形を読み取ることができる。
　　・ルーペを能動的に使おうとする。

授業モデル共通要素

各番号は授業モデルの弱視通級要素

	学習活動
	活動「ルーペを上手に使おう」
つかむ（課題）	1．めあてや活動を確認する・振り返る ・学習の見通しをもつ。 2．体験する ・体験活動を行う。
考える（思考）	3．自分の考えをもつ ・どうしたら上手に使えるか考える。 ・課題に取り組む。
かかわる（交流）	4．実践・交流する ・見やすいところ、見えにくいところを発言する。 ・実践し、考えを試す。
深める（深化）	5．振り返る・再実践する ・再考する。 ・必要に応じてもう1度取り組む。
かかわる（交流）	6．実践・交流する ・どうしたら上手にルーペを使えるか考える。 ・教師や、ほかの児童の体験を聞く。
深める（深化）	7．振り返る ・在籍学級や生活の中でどのように行動するか考える。 ・次回の目標を決める。

「つかむ」「考える」「かかわる」を経て、
個々の「深める（思考の深まり）」へ

★めあてを選択する場面

体験活動について

◎必要な視覚機器の特性や操作方法を理解する。

視覚機器の主な例

・単眼鏡・ルーペ・拡大読書器・タブレット端末など

◎見たことがない、触ったことがない事象に対して安全に体験する機会を作る。

例）・「アサガオの葉の観察で拡大読書器を使って葉脈があることを知る。」
・「理科の実験で、マッチで火をつける。」
・「夜空に星があることを知る。」

★かかわる場面

交流活動について

弱視通級指導は1対1で授業をすることが主なため、基本的に教員との対話がメインになる。

例）・「教員のアドバイスを聞いて実践方法を決める。」
・「ほかの弱視児童の体験談をもとに決める。」等

★深める場面

再考について

導き出した答えが効果的・効率的なものであるかどうかもう一度試す。不十分であればもう一度取り組む。

例）「ルーペを使って本を読んだが、読速度が遅くなったため、拡大コピーにしてみる。」

振り返りについて

在籍学級での学習や、日々の生活の中でどのように生かしていくのか具体的に考え決定する。

例）「本を読む時にはルーペは使わないけど、文字が小さい本を読む時はルーペを使う。」
「バスの行き先を見るために、単眼鏡を使って電光掲示板を見る。」

■眼疾患に応じた手立て（白内障の場合）

○白内障とは、目の中でレンズの役割をしている水晶体が濁る病気。水晶体が濁ると、光がうまく透過できなくなったり、光が乱反射したりして見えにくくなる。

白内障の児童にルーペの指導をする場合（手立て→★）

つかむ：「はっきり見える」とはどういう見え方なのか、体験する。

★ピントが合っている画像とぼやけている画像を見比べさせる。

児童の思考：「みんなくっきり見えているんだ。」

「ルーペを使うとくっきり見える。」

児童の普段の見え方（例）

ピントが合った見え方

考える：ルーペはどの距離で使うといいのか考える。

★体験した内容や、経験を思い出させる。

児童の思考：「遠くは見えない。」

「教科書や図鑑が見えやすい。」

かかわる：教員との対話を通して活動を行う。

★児童が知らないことや、イメージしにくいことを想起させるために発問する。

教員の発問：「漢字の隣に書いてある読み仮名（ルビ）は見やすくなったかな。」

「本を読むときはルーペとタブレット、どちらが使いやすいかな。」

児童の思考：「読み仮名が書いてあるなんて知らなかった。ルーペは便利。」

「タブレットだと持つのが重たい。」

手持ちルーペ

深める：学校や、普段の生活でルーペをどのように使うか決める。

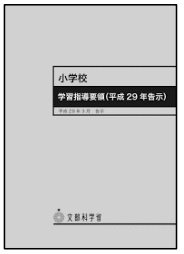
★生活の中で具体的にどうするか決めさせる。

児童の思考：「ルーペの方が軽くて使いやすいから、いつも持ち歩く。」

■見えにくさに応じた手立て

内容	はさみ使い	漢字	ボール運動
つかむ	色々な太さの線をはさみで切らせる。	覚える新出漢字の見通しをもたせる。	多様な形・大きさのボールでキャッチボールをさせる。
考える	上手に切れたところ、切れなかったところを考えさせる。	覚えやすい方法を考えさせたり、視覚機器を使わせたりする。	取りやすい立ち位置や距離を考えさせる。
かかわる	切りやすい線の太さを決定させる。	書いた字が正確かどうかタブレットで確認させる。	発問を通して取りやすい場所を認知させる。
深める	線を太くしてもらえるよう援助依頼させる。	家庭学習の時にどう工夫するか決めさせる。	在籍学級で気を付けることを決定させる。

思考力等の評価



確かな学力コアプラン
適正評価　評価改善

子供たちに未来の創り手となる
ために必要な資質・能力を育む

指導と評価の
一体化を
目指して

文科省「小学校学習指導要領」「学習評価の在り方ハンドブック」
都教委「指導と評価の一体化（理論編・実践編）」

本校学習評価研修2「指導評価のプロとして」より抜粋

学習指導要領　各教科等の目標（思考力等抜粋）

	国語	社会	算数	理科	生活
見方・考え方 活動 資質・能力	言葉による見方・考え方を働かせ， 言語活動を通して， 国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を 次のとおり育成することを目指す。	社会的な見方・考え方を働かせ， 課題を追究したり解決したりする活動を通して， グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を 次のとおり育成することを目指す。	数学的な見方・考え方を働かせ， 数学的活動を通して， 数学的に考える資質・能力を 次のとおり育成することを目指す。	自然に親しみ， 理科の見方・考え方を働かせ， 見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して， 自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を 次のとおり育成することを目指す。	具体的な活動や体験を通して， 身近な生活に関わる見方・考え方を生かし， 自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を 次のとおり育成することを目指す。
思考力・判断力・表現力等	(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。	(2) 社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力，考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。	(2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力，基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。	(2) 観察，実験などを行い，問題解決の力を養う。	(2) 身近な人々，社会及び自然を自分との関わりで捉え，自分自身や自分の生活について考え，表現することができるようにする。

	音楽	図工	家庭	体育	外国語活動
見方・考え方 活動 資質・能力	表現及び鑑賞の活動を通して， 音楽的な見方・考え方を働かせ， 生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を 次のとおり育成することを目指す。	表現及び鑑賞の活動を通して， 造形的な見方・考え方を働かせ， 生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を 次のとおり育成することを目指す。	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ， 衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して， 生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を 次のとおり育成することを目指す。	体育や保健の見方・考え方を働かせ， 課題を見付け，その解決に向けた学習過程を通して， 心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を 次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ， 外国語による聞くこと，話すことの言語活動を通して， コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を 次のとおり育成することを目指す。
思考力・判断力・表現力等	(2) 音楽表現を工夫することや，音楽を味わって聴くことができるようにする。	(2) 造形的なよさや美しさ，表したいこと，表し方などについて考え，創造的に発想や構想をしたり，作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	(2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し，様々な解決方法を考え，実践を評価・改善し，考えたことを表現するなど，課題を解決する力を養う。	(2) 運動や健康についての自己の課題を見付け，その解決に向けて思考し判断するとともに，他者に伝える力を養う。	(2) 身近で簡単な事柄について，外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。

	外国語	総合的な学習の時間	特別活動	読書科（江戸川区）	特別の教科　道徳
見方・考え方 活動 資質・能力	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ， 外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して， コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を 次のとおり育成することを目指す。	探究的な見方・考え方を働かせ， 横断的・総合的な学習を行うことを通して， よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を 次のとおり育成することを目指す。	集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ， 様々な集団活動に自主的，実践的に取り組み，互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して 次のとおり資質・能力を育成することを目指す。	読書における見方・考え方 ※を働かせ、 読書を通じた探究的な学習を通して、 生涯にわたって主体的に学び続けていくための資質・能力を 次のとおり育成することを目指す。 ＜※読書における見方・考え方＞　読書を通じて、人や社会、自然に関わる様々な事象を多様な角度から捉え、自己の考えや生き方、実社会、実生活と関連付けること。	第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき， よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため， 道徳的諸価値についての理解を基に， 自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考えを深める学習を通して， 道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。
思考力・判断力・表現力等	(2) コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，身近で簡単な事柄について，聞いたり話したりするとともに，音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりして，自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	(2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現することができるようにする。	(2) 集団や自己の生活，人間関係の課題を見いだし，解決するために話し合い，合意形成を図ったり，意思決定したりすることができるようにする。	(2) 問題を発見し、読書を通して集めた情報を整理・分析して解決するとともに、自らの考えをまとめ・表現することができるようにする。	

〔１〕 評価方法の設定について

適正な評価を実施するためには、適切な評価規準の設定と併せて、評価規準に示される資質・能力を評価するのにふさわしい評価場面や評価方法を選択することが重要です。この評価場面や評価方法の設定については、児童・生徒の状況を無理なく的確に把握できるよう選択・検討することが求められます。

《主な評価方法》

◇**「ペーパーテスト」**

ペーパーテストには、単元（題材）ごとや１単位時間ごとに行う小テスト、中間や期末テストといった定期テストなどがあります。自作テストの作成に当たっては、単元（題材）の目標及び内容に基づくとともに、解答の形式（選択式、短答式、記述式等）などを工夫して評価の観点との関連を意図した問題を作成することで、児童・生徒の学習の実現状況を分析的に把握できるようにすることが重要です。

◇**「観察や対話による評価」**　…活動の様子の観察、ノート、面接などを通して行う。

◇**「作品の評価」**　…作文、小論文、レポート、作品などを通して行う。

◇**「実演（実技）の評価」**　…口頭発表、演奏、演技、操作などを通して行う。

ペーパーテストでは見えにくい学力を可視化して評価するために、このような評価方法を工夫して活用することが重要です。

しかし、例えば「思考・判断・表現」の資質・能力が、活動や作品等に直接表れているとは限りません。したがって、その背後にある児童・生徒の資質・能力の発揮・伸長の状況を把握しようと努めることが大切です。

また、児童・生徒の学習の活動状況や態度を観察して評価する際は、観察に追われて適切な指導ができないということがないよう、あらかじめ評価の対象となる行動や状態を想定しておく、すなわち評価規準を明確にしておくことが大切です。

これらの学習評価を総称して**行動観察**（見取り）と呼ぶ。ペーパーテストと区別する。行動観察とペーパーテストを併用し評価する。

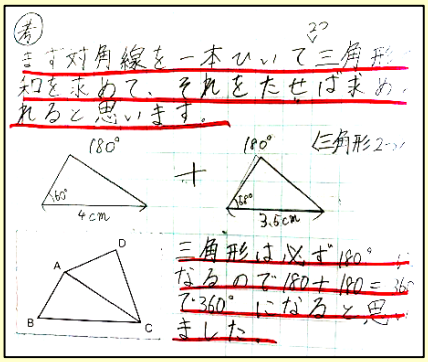
＜行動観察 例＞

授業中の活動様子や発言・発表、ノート等の記述、実演・実技、作成物、児童振り返りの見取りなど、様々な学習活動の「児童の行動の観察」（見取り）

行動観察例　国語科発言記録

思考・判断・表現
↓叙述に基づいて考えている

行動観察例　算数科ノート記載

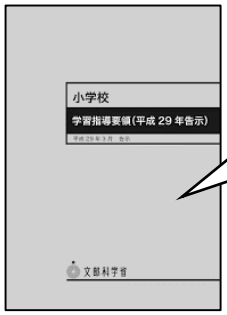


思考・判断・表現
↓筋道を立てて考えている

内容のまとまりごとの評価（都教委資料理論編をもとに）

〔2〕「内容のまとまりごとの評価規準」とは

学習指導要領には、各教科等の「第２　各学年（分野）の目標及び内容」の「２　内容」において、「内容のまとまり」ごとに育成を目指す資質・能力が示されています。



〔第3学年及び第4学年〕
２　内容　Ｃ　読むこと
〔思考力，判断力，表現力等〕
⑴　読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。
イ　登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えること。
ウ　目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。
エ　登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。
オ　文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。
カ　文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

都教委実践編P6-7

学習指導要領各教科等の学年の内容が「単元の目標」

小学校
国語②

心にのこった登場人物を「しょうかいカード」でしょうかいしよう
第３学年　Ｃ読むこと

思考・判断・表現　｜　主体的に学習に取り組む態度

1　単元の目標

(1)　様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。　〔知識及び技能〕(1) オ
(2)　登場人物の性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1) エ
(3)　言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

2　単元における言語活動

同じ作者による複数の作品を読み、心に残った登場人物を選んで「しょうかいカード」にまとめ、紹介し合う。
(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2) イ)

3　単元の評価規準

学習指導要領各教科等の学年の内容が「評価規準」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使っている。((1) オ)	①「読むこと」において、登場人物の性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1) エ)	①　進んで、登場人物の性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって感じたことや考えたことを文章にまとめようとしている。

都教委理論編P9

「知識・技能」の評価規準については、基本的に、①において「知識及び技能」で示された内容をもとに、その文末を「～している」、「～できる」などとして作成します。

「思考・判断・表現」の評価規準については、基本的に、①において「思考力、判断力、表現力等」で示された内容をもとに、その文末を「～している」、「～できる」などとして作成します。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準については、基本的に、当該学年の「主体的に学習に取り組む態度」の観点の趣旨をもとに、当該「内容のまとまり」で育成を目指す「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」で示された内容や指導事項等を踏まえ、その文末を「～しようとしている」、「～している」などとして作成します。

3　単元の評価規準

思考・判断・表現

① 「読むこと」において、登場人物の性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。
（C(1) エ）

単元（内容のまとまり）の中で評価場面と方法を設定

※設定回数は指導内容・学年等の状況による

4　単元の流れ（11時間扱い）

※本事例では、「知識・技能」の評価については省略している。

次	時	主たる学習活動	指導と評価の一体化に向けた考え方
一	1	○ 教師が作成した登場人物の紹介カードを見て、物語を読んで心に残った登場人物と自分が感じたことや考えたことを、登場人物の性格に着目して紹介し合うという学習の見通しをもつ。	◆ 学習の見通しをもたせる。 教師が心に残った登場人物を性格に着目して紹介することで、紹介するという言語活動に対する見通しを児童にもたせる。また、単元に設定した言語活動を教師自身が行うことにより、指導や評価を行う際の留意点を明確にする。 児童がいつでも斎藤隆介の作品を読むことができるように、本を借り、教室に常備するなど学習環境を工夫する。
	2	○ 既習の物語を想起し、登場人物の性格を表す言葉を集める。	
二	3〜7	○「モチモチの木」を読み、心に残った登場人物である豆太がどういう人物か考える。 ○ 豆太のことがよく表れている豆太の行動や会話などに関わる言葉や文を見付けて線を引き、その言葉や文を基に豆太の性格を想像して、第2時で学習したことを基に短い言葉で付箋紙に書く。 ○ 付箋紙を基に、豆太の性格について話し合う。必要に応じて付箋紙に書き加える。 ○ 毎時間、学習活動を振り返る。	◆ **叙述に基づき、豆太の性格を考えさせる。** 豆太のことがよく表れている叙述に着目させ、その叙述から分かる豆太の性格を短い言葉で付箋紙に書き、書いた付箋紙を着目した叙述の近くに貼らせる。 【児童が付箋紙を貼った教科書の一部】 **振り返りの記述から児童の学習状況を捉え、必要に応じて学習改善につながる指導・助言を行う。**
	8・9	○ 物語全体を読み、自分が貼った付箋紙を比較したり分類したりすることで、登場人物の性格が分かる叙述は物語全体に広がっていることに気付く。 ○ 複数の叙述を結び付けて豆太の性格について考える。 ○ 豆太の性格について友達と交流する。その際、交流したことをメモし、自分の考えがどのように変わったのかを記録に残す。 ○ 豆太について、「しょうかいカード」を書く。● ○ 毎時間、学習活動を振り返る。●	◆ **一つの叙述だけでなく、複数の叙述を根拠にすることで、より具体的に豆太の性格を考えさせる。** 自分の考えをはっきりとさせるために、着目した叙述とその叙述から分かる性格について友達と交流する。交流したことをメモすることで、自分の考えがどのように変わったのかを記録に残し、紹介カードを書く際に活用できるようにする。 **「思考・判断・表現」①で評価（「しょうかいカード」）** ◆「学習のめあて」に沿って振り返らせる。 学習を振り返る際は、「学習のめあて」に立ち返らせ、その視点に沿った書き方を指導する。 **「主体的に学習に取り組む態度」①で評価（ノートにおける振り返りの記述）**
	10・11	○ 斎藤隆介の他の作品から自分が紹介したい作品を選び、「しょうかいカード」を書く。 ○「しょうかいカード」を読み合い、感想を伝え合う。 ○ 単元の学習活動を振り返る。	

5　「Bと判断する状況」の例

思考・判断・表現

自分が選んだ登場人物の性格について、複数の叙述を結び付けて具体的に想像し、「しょうかいカード」を書いている姿

児童3は、**「しょうかいカード」**における、━━部①の叙述から、豆太が臆病であることを、━━部②の叙述から豆太が勇気をもっていることを、━━部③の叙述から豆太が優しさをもっていることをそれぞれ想像していると捉えた。また、「おくびょう」という性格については、**児童3**の教科書を確認したところ、物語全体に描かれた行動や会話に関わる叙述に着目して付箋紙を貼り、複数の叙述を結び付けて豆太の性格について想像していることを確認した。これらのことから、豆太の性格について、複数の叙述を結び付けて具体的に想像していると捉え、**「おおむね満足できる」状況（B）**と判断した。

複数の叙述を結び付けて豆太の性格を想像していない児童は、**「努力を要する」状況（C）**と判断した。このように判断した児童には、線を引いた叙述と自分で貼った付箋紙を確認しながら物語全体をもう一度読ませることで、登場人物の性格が分かる叙述は物語全体に広がっていることや複数の叙述を結び付けると登場人物の性格をより具体的に想像することができることを確認させ、次の学習に生かすことができるように指導する。

①**学習指導要領**各教科等の**学年の内容が「単元の目標・評価規準」**
②適宜、**評価場面・方法を設定**

B（＝学習指導要領内容に到達しているか）を評価するということは、CやAの児童もいる（皆Bなら評価の必要なし）。ABC状況を明らかにして、次の指導に生かすことを「指導と評価の一体化」という。また、ABCそれぞれの状況の児童に応じた指導を「個別最適な学び」という。

●評価の手順

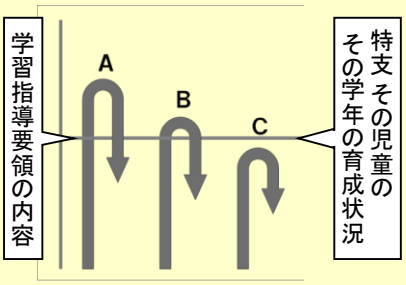
ABC全てについて評価規準を作成するのではなく、評価規準を示したものを「おおむね満足できる状況（B）」として捉え、それを踏まえてAとCを判断します。

①「おおむね満足できる状況（B）」か「努力を要する状況（C）」かを判断します。

②「おおむね満足できる状況（B）」と判断されるもののうち、児童生徒の学習の実現の程度について、質的な高まりや深まりをもっていると判断されるものを「十分満足できる状況（A）」とします。

その学年の学習指導要領の内容（＝評価規準）について下記のように評価する。

- 到達していれば：**おおむね満足**な状況
  →B（**当該学年の状況**）**※当該学年の指導内容だから全員B以上100％（90％）を目指す**
- 到達していなければ：努力を要する状況
  →C（下学年の状況）
- 大きく超えていれば：十分満足できる状況
  →A（上学年の状況）



行動観察B以上100％（90％）以上

➢こうかちゃん：開校140周年キャラクター
　原画：2学年児童（令和元年度） 校歌をモチーフに
➢SDGsロゴ／江戸川区承認

©江戸川区立小岩小学校

江戸川区立小岩小学校